令和６年度　茨城県立農業大学校評価表

重点目標 Ⅰ　【　県総合計画等に沿った教育内容の充実　】

１　現状及び課題、並びに評価項目

現　　状	課　題	評価項目（達成目標）
○農業振興に貢献する優れた農業者等を育成するため、県総合計画に沿って経営者マインドの醸成に向けた経営実践プロジェクト学習に取り組んでいる。農学科では、利益を確保するための価格設定や販売方法を検討するとともに、新たな販売先を模索している。また、園芸学科では対象品目を選定し、学生に消費者ニーズに沿った品種選定、栽培管理、販売といった一連の流れを経験させている。これらの取り組みにより、経営感覚を養っている。	○１年次学生は価格設定や販売、コストへの意識などが十分とはいえないため、教育を通じて経営者マインドを身に着けさせる。	経営者マインドの向上 経営者マインドの向上した学生割合　100%
○農業の現場では、農業所得の向上を目指してドローンや環境制御装置などICT技術の導入を推進していることから、学生に新技術等の知識を習得させるため、農機メーカー等と協力して専攻実習の時間に機械の実演会等を実施するカリキュラムを取り入れている。 ○就農・就職した際にGAP分野でも即戦力となる人材や、将来的にはGAPを取り入れた持続的かつ効率的な農場運営で儲かる農業を実現できる農業経営者の育成を目指して、ASIAGAP基準に沿った教育を行っている。 ○SDGsや環境に対する関心が国内外で高まり、国において「みどりの食料システム戦略」が策定されるなど、農業において環境との調和や持続性の取り組みが求められる中、県では有機農業の推進に力を入れている。	○新技術や新たな取り組みに関する知識を習得するための教育をさらに充実させる。 ○GAPの継続認証による実践を伴った教育を続けていく。 ○県の施策の方向性を鑑み有機農業に関する教育を続けていく。	新技術や新たな取組に関する教育の充実 ICT研修会開催　延べ13回以上 ASIAGAPの継続認証　４品目 有機農業実践経営体での実習有機農業実践経営体での実習 ３人

２　評価項目別の評価及び次年度の課題

（１）経営者マインドの向上

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント［全般］
経営者マインドの向上した学生割合　100%	A	将来農業経営を行っていく際に栽培技術だけでなく経営管理が大切になるとの意識が向上したと回答した学生の割合は100%であり、学生の経営者マインドを向上させることができた。 学生への、今後の農業経営を行う上で必要な項目を問うアンケートでは、事業の計画や目標に次いで、コストや収支計算、販売価格の設定が重要と回答するなど、経営管理に関する意識を向上させることができた。	経営感覚を身に付けさせる取り組みは重要である。アンケートで、学生がコストや収支計算、販売価格の設定が重要と回答している事は好ましい結果である。 達成度の評価基準と照らし、Ａ評価は適当である。

達成度の評価基準	
A	100%達成
B	80～99%の達成
C	60～79%の達成
D	40～59%の達成
E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
ア【拡充】経営感覚を醸成する学習機会の確保 ・経営実践プロジェクト学習により生産から、販売を考えた商品設計、営業、納品までの一連の事業活動を学生に体験させ、企画力販売力の向上をはかる。併せて学生自ら原価計算、価格設定を行い、売上を把握することコスト意識を醸成する。 特別講義　８回　【Ｒ５実績：９回】 対象品目　８品目以上　【Ｒ５実績：10品目】 新規販路拡大　２か所以上　【Ｒ５実績：２カ所】 効果測定アンケートの実施　１回　【Ｒ５実績：１回】 ・農業者等が運営している農場等の見学や経営状況を学び、経営理念や経営手法を学ぶ。 先進農業派遣実習の実施　80か所【Ｒ５実績：80か所】 先進経営体視察研修の実施　６か所【Ｒ５実績：26か所】 ・原則、全学生が取り組めるよう実施体制を整備する。	ア　経営感覚を醸成する学習機会の確保 【取組実績】 （ア）特別講義 ・経営における目標設定や事業計画策定の重要性、販売価格の設定や販売戦略の策定の方法を学んだ。 特別講義の実施　８回 （イ）経営実践プロジェクト対象品目 ・全学科・コースでの取り組みとし、水稲、トマト、ナシ等、農業部８品目、園芸部４品目の計12品目を対象に経営実践プロジェクトに取り組んだ。 対象品目　12品目 （ウ）新規販路拡大 ・前年度に引き続き飲食店と新規商品開発に取り組み、農大産のナシを原材料としたタルトが新商品として発売された。 ・学生自らアルバイト先（コンビニエンスストア）と交渉し、アルバイト先の店頭に野菜を陳列・販売することが	ア　経営感覚を醸成する学習機会の確保 （経営実践プロジェクト学習の実施） ・経営者マインドの醸成につながる重要なカリキュラムであり、今後も力点を置いて継続する。 （先進経営体視察研修の実施） ・学生が幅広い視野と高度な技術・経営能力を学習できるよう、次年度も引き続き積極的に先進事例の研修・訪問等を実施する。	・学生に経営を学ばせるため、職員からの指導だけでなく、特別講義を設けるなど、外部講師を活用する取り組みは望ましい。 ・経営実践プロジェックに学生全員取り組んだように、簿記検定についても全員が受験するように進めていくことも必要と考える。

	できた。 ・これまでの市場出荷から、より高単価での販売を目指し、流通業者との販売交渉を行い、新たな販売先を開拓した。 新規販路拡大　飲食店、コンビニ等　４か所 （エ）効果測定アンケート：年度末に実施 （オ）経営理念や経営手法の学習 ・学科コース毎に校外学習を計画し、先進経営体の圃場、施設、経営状況を学ぶ機会を確保した。 先進農業派遣実習の実施　　68 か所 先進経営体視察研修の実施　８か所 （カ）実施体制の整備 ・全コース・学科での取り組みとした。 【成果】 ・経営実践プロジェクト学習や先進農業派遣実習、視察研修により、多くの学生の経営管理への興味を向上させた。		

（２）新技術や新たな取組に関するカリキュラムの充実

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント［全般］
ICT 研修会開催　　延べ 13 回以上 ASIAGAP の継続認証　４品目 有機農業実践経営体での実習 ３人	B	ICT 研修会開催は目標 13 回に対し実績 16 回と、目標を達成することができた。研修会に加え、実習圃場への ICT 機器の導入などを行い、学生が ICT などの最新技術を習得する機会の確保に努めることができた。 ASIAGAP については、農業部では、学生とともに準備を行い、４品目の認証継続を得ることでき、目標を達成できた。さらに園芸部において、管理マニュアルの作成作業や事前確認などの準備を進め、次年度の抑制メロンの新規認証に備えた。 有機農業実践経営体での実習は１人に留まったが、14 名に対し校外学習による視察研修を行うともに、有機農業に関連する講義の実施や、「みどりの食料システム戦略」学生チャレンジへの取組などを通じて有機農業に関する学習機会の確保に努めた。	県の施策に沿ったカリキュラムを組んでいることはよいことである。 ３つある目標の 1 つが達成できなかったことから、達成度Ｃとの自己評価であったが、達成した残り２つの目標の達成度と総合的に考えるとＢ評価が妥当である。

達成度の評価基準	
A	100%達成
B	80～99%の達成
C	60～79%の達成
D	40～59%の達成
E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
ア【継続】ICT などの最新技術の習得機会の確保 ・最新かつより有用な技術について学習させるため、関係機関や民間との協力による講義や実習を実施する。 ４月～２月、延べ 13 回以上　【Ｒ５実績：12 回】 ・ICT 機器を実習圃場に導入しプロジェエクト活動等による効果検証を通じて新技術への理解を深める	ア　ICT などの最新技術の習得機会の確保 【取組実績】 ・農学科普通作コースで水田自動給水栓、同果樹コースで AI 自動潅水システム、園芸部で病害虫診断アプリなどを対象に、最新のシステムとその操作を学んだ。 講義や実習の実施：４月～Ｒ７年１月、延べ 16 回 ・前述の機器に加え、畜産科に発情発見器、園芸部でハウス内環境計測機器などを導入し、それらの活用方法を学び、技術への理解を深めた。 ICT 機器の実習圃場への導入：６件 【成果】 ・ICT などの最新技術の習得機会の確保し、学生に最新かつより有用な技術について学ばせた。	ア　ICT などの最新技術の習得 ・次年度も最新かつ有用な技術を選定のうえ、計画的に農機メーカー等と連携した実演会を実施するとともに、導入した ICT 機器を課題解決型学習のテーマとして学生が取り組めるよう誘導する。	・スマート農業の導入は基本が出来た上で取り組む技術である。まずは、ベースとなる基本的な栽培技術の向上に尽力してほしい。
イ【継続】GAP の実践による学習機会の確保 ・農学科・畜産学科においては、ASIAGAP［メロン、ネギ、ナシ、ブドウ］の農場運営を手本に、全体で GAP の概念を取り入れた実習を実施する。	イ　GAP の実践による学習機会の確保 【取組実績】 ・農学科・畜産学科 ASIAGAP の認証継続を申請するために、４品目で引き続き	イ　GAP の実践による学習機会の確保 ・農学科では引き続き、講義、農学科全体で ASIAGAP の概念を取り入れた実習を継続する。	・ＧＡＰが経営改善のツールとなっていることを学生に引き続き理解させて欲しい。【田場】 ・ＧＡＰに取り組むことが経営として

認証継続４品目　【Ｒ５実績：４品目】 ・園芸学科においては、品目の選定などASIAGAP新規認証取得にむけ書類整備などの準備をすすめる。 認証取得に向けた取り組み品目（抑制メロン）	GAPの概念にそった実習を行った。 ・園芸部 抑制メロンを対象にASIAGAP新規認証取得にむけて事前確認や書類整備などの準備をすすめた。 【成果】 ・GAP の認証継続・新規認証に向けての活動を行うことにより、GAPについての理解を深めることができた。	園芸学科でも、引き続き令和７年度認証取得を目指し、ＧＡＰの考え方を取り入れた実習活動を実施する。	成り立つことにつながることが重要である。
ウ【拡充】有機農業に関する学習機会の確保 ・環境や持続性に配慮した農業について理解を深めるため、特別講義を開催する。１回 ・土壌肥料学、農業機械学、植物病理昆虫学などの講義で有機農業に必要な栽培技術を学ぶ。 ・農林水産省の「みどりの食料システム戦略」学生チャレンジに取り組み、生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するための方策を学ぶ。 ・経営体の実態を学ぶためプレ農業人フェスタなどで県内大規模有機農業実践経営体への研修へ誘導する。　３人	ウ　有機農業に関する学習機会の確保 【取組実績】 （ア）特別講義 ・有機農業に取り組んでいる農業者を講義に招き、有機農業の実態についての特別講義を行った（10/18実施）。 （イ）講義における栽培技術の学習 ・有機農業概論、土壌肥料学、農業機械学、植物病理昆虫学などの講義で有機農業に必要な栽培技術を学習した。 （ウ）「みどりの食料システム戦略」学生チャレンジへの取組 ・農業部４グループ、園芸部１グループで「みどりの食料システム戦略」学生チャレンジに取り組んだ。 （エ）有機農業の体験 ・県内大規模有機農業実践経営体への研修：１人 ・校外学習による有機農業の学習：14名 【成果】 ・有機農業についての理解を深めることができた。	ウ　有機農業に関する学習機会の確保 ・有機農業を学ぶ講座による学習とともに、引き続き視察等により実践経営体の実例を直接学ぶ機会を設ける。	・全学生が有機農業の特別講義を受講したり、体験をできるようになるとさらに良い。